

拠点病院緩和ケアチームの実際 緩和ケアチーム看護師の立場から

三重大学医学部附属病院 緩和ケアチーム看護師
長谷川真紀



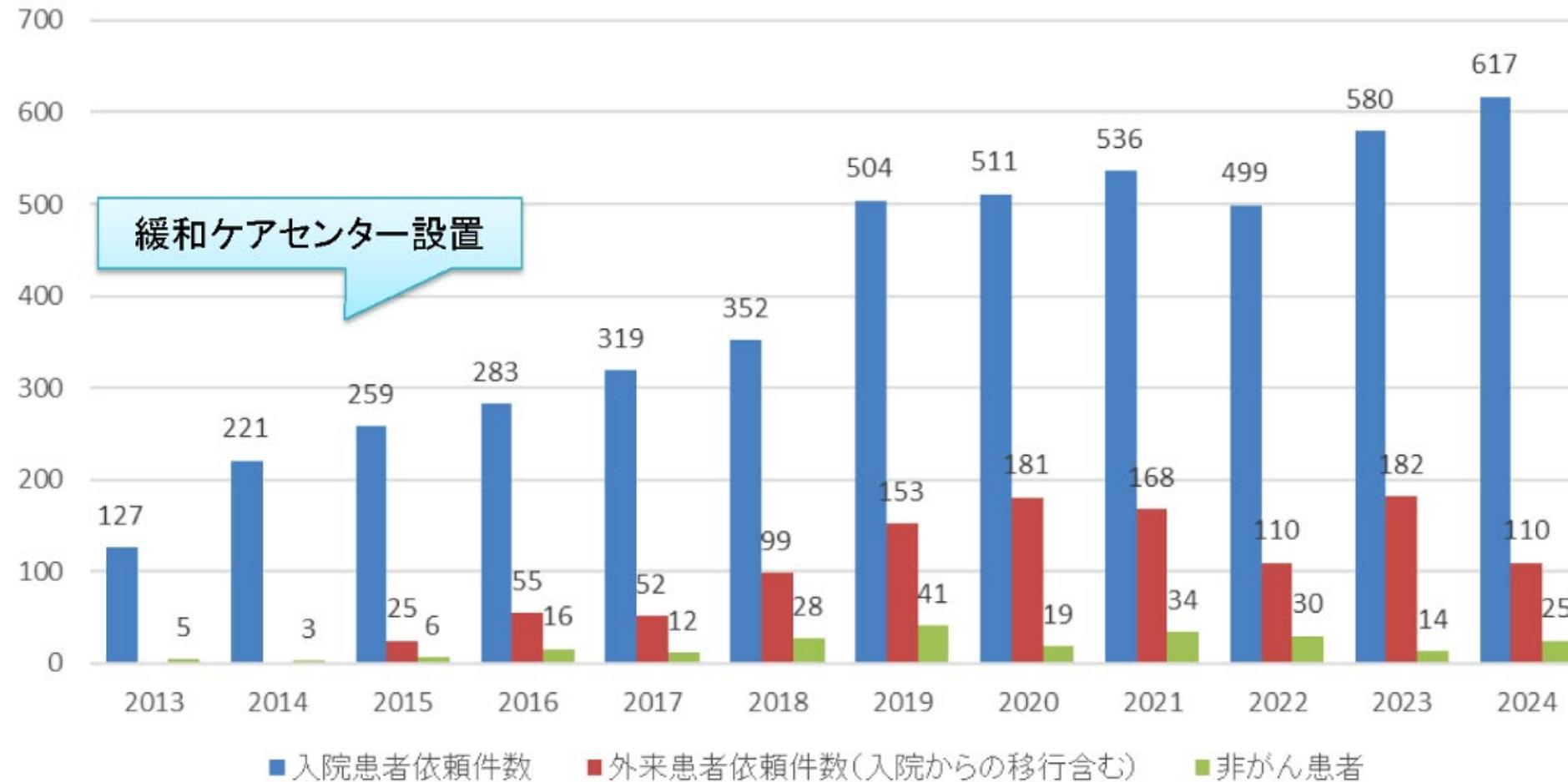
当院の緩和ケアチームについて

- ・緩和ケアチームは、緩和ケアセンターに属し、大学病院における専門的緩和ケア対応のための多職種医療チームである。
- ・対応内容:疾患や治療に伴う身体症状、精神症状、心のケア、転院・退院支援、意思決定支援など心理社会的問題に関する相談に応対する。対象はがんに限らない。

構成メンバー (2026年1月現在)

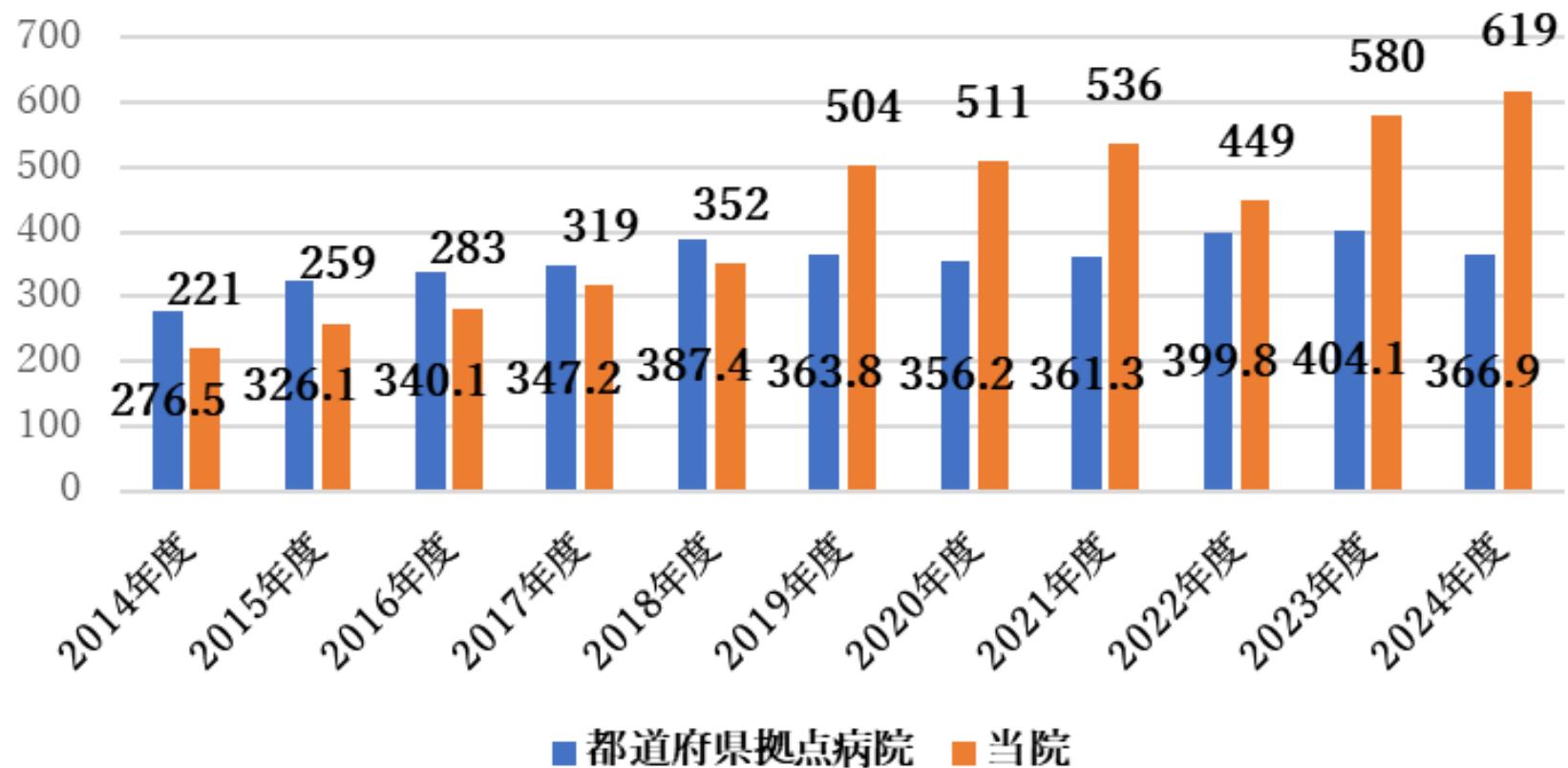
身体症状担当医師、精神症状担当医師、看護師、薬剤師、公認心理士、管理栄養士、鍼灸師、理学療養士、作業療法士医療、医療ソーシャルワーカー

緩和ケアチーム年間依頼件数の推移



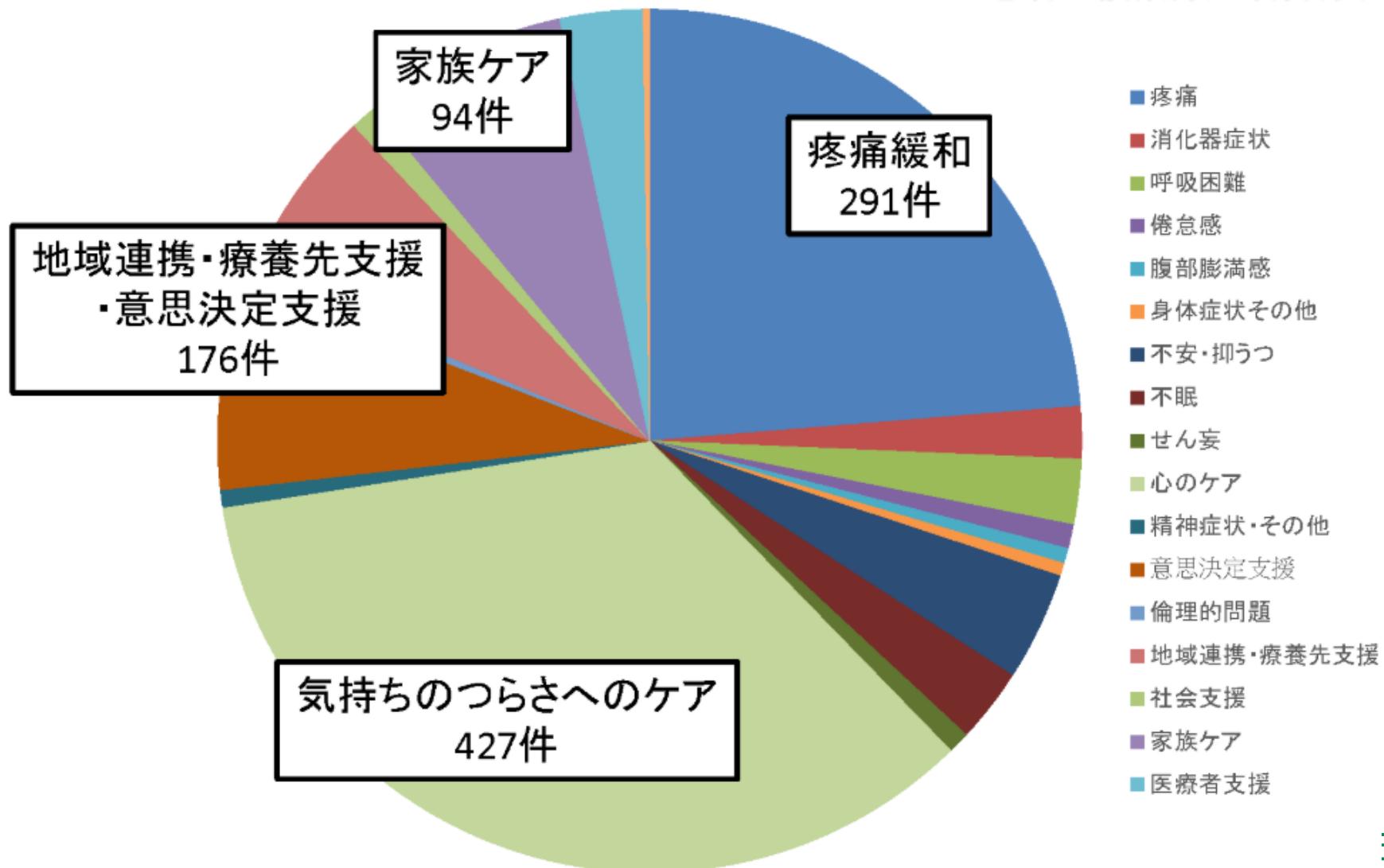
都道府県拠点病院との比較

緩和ケアチーム年間依頼件数



緩和ケアチーム介入内容の内訳(619件)

ひとりの患者に複数介入項目あり



がん診療連携拠点病院における 緩和ケアチームとして求められる役割

- ・高度先進医療に対応した質の高い医療と並行して
提供する緩和ケア

緩和ケアチーム依頼の約9割が診断時/治療中
最新のがん治療や院内外の動向への理解が不可欠

- ・医療者の育成

教育機関でもあり、医師看護師等の入れ替わりが
激しい状況のなか、経験年数の浅い医療者との
協働が求められる。

- ・他施設との協力による地域医療への貢献

緩和ケアチーム活動の実際

緩和ケアチーム:初回依頼時の対応

- 依頼を受ける、依頼者と話し合う

依頼者が求めているニーズのについて把握する

- 患者を訪問する

- 患者・家族等の意向を確認し、目標を立てる

依頼元が立てている目標とズレがないことを確認する

- 具体的マネジメント方法について話し合う

誰が何をするか、どのように関わるか話し合う

目標とプロセスを共有し、依頼者の実践を支援する

- 介入の実施と評価を行う(依頼者とアセスメントを共有する)

- 介入継続／終了について話し合う

依頼を受ける、依頼者と話し合う

Aさん80歳代男性、切除不能癌、腹部違和感と疼痛を主訴に受診。化学療法導入目的に入院。

主科にて弱オピオイドが開始されたが、恶心嘔吐のため中止となった。→NSAIDs定期内服が開始となり、痛みは落ち着いた。自宅では元気に過ごし食事も食べていた。症状には波があるようで入院後は痛みを強く訴えることも。

痛みの評価が難しいと担当医は考えており、疼痛緩和に関する緩和チーム依頼を受けた。



緩和ケアチーム活動の実際 事例 依頼を受ける、依頼者と話し合う

病棟看護師が“苦痛のスクリーニング”を実施

- 早く受診すればよかった。痛みもないから病院に行こうなんて思わなかつた。検査を受けて癌が分かり後悔した。
- 熱が出て抗がん剤が延期になった。先生がせっかく調整してくれたのに情けない。焦りもある。
- 一年後生きてる可能性は5割と聞いた。半分は生きてるってことだよね。平均寿命までは生きたい。治療を頑張りたい。
- 最期はどんなふう？ 苦しい？ 痛くてたまらない？



今は抗菌薬や痛みの治療を行いながら全身状態の改善を目指す。発熱が落ち着いたら治療ができる。何でも気軽に相談して欲しい。



話を聴いてくれてありがとう安心した。また相談するから聴いて。

緩和ケアチーム活動の実際 事例 依頼を受ける、依頼者と話し合う

苦痛のスクリーニング結果

- ・身体の症状: 痛みはあるが許容範囲となった
- ・気持ちのつらさ: 最大

#トータルペイン

突然の罹患、切除不能がん、根治の難しさ等バッドニュースとの直面、高齢ながら周囲から頼りにされる存在だったが、これまでのようには過ごせない心理社会的な苦痛、スピリチュアルペインが生じている。

緩和ケアチーム活動の実際 事例 患者を訪問する

病棟看護師と共有後、PCT医師・看護師が病室を訪問

- ・手術はできないし治らないと聞いている
- ・忙しくしていて受診が遅くなつたことが悪い
- ・ずっと病気知らずだった急にこんなことになった
- ・これまで家族や周囲の相談事を引き受けてきた
- ・旅行にもよく出かけていた。楽しみがいっぱいあったのに
- ・でも負けたくない。抗がん剤治療を前向きに頑張りたい
- ・○さんが話を聴いてくれた
- ・痛かったけど先生がよく合う痛み止めを出してくれた。
痛みは楽になった。



緩和ケアチーム活動の実際 事例 患者・家族等の意向を確認し、目標を立てる

Aさんの意向

生きたい

抗がん剤治療を頑張りたい

目標

Aさんが前向きに治療を頑張れるように支える



具体的なマネジメント方法(誰が何をするか)を 話し合う

- 痛みはNSAIDs定期内服で落ち着いている。
基本的緩和ケアとして、痛みの観察、鎮痛剤の処方継続を主科が行う。痛みの強度に合わせ、オピオイド鎮痛薬の導入を待機的に検討する
- 基本的緩和ケアとして、気遣うケア、聴くケアを病棟看護師が継続する。

介入継続／終了について話し合う

- ・緩和ケアチームは継続的な介入はしない
- ・患者の苦痛が増大し、応対に困る際には緩和ケアチームに連絡を頂き、困り事への対応について話し合う。

依頼の応対において、大事にしたこと

- 苦痛のスクリーニングの意味目的の振り返り

患者の気がかりを気遣うことの大切さについて、丁寧に話し合った

- 基本的緩和ケアの重要性

当院の緩和ケアの提供体制について意識しながら対話

当院の緩和ケア提供体制

基本的緩和ケア

病棟や外来などで全ての医療職によって提供される

専門的緩和ケア

病棟や緩和ケア外来、がん看護外来などで緩和ケアチームメンバー等によって提供される

介入成果はふたつ

- ・患者の苦痛が和らいだ
- ・病棟の実践者の自信とモチベーションの向上に繋がった。

チーム医療とは

医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること

チームを例えるなら

一つのゴールにむかって、
相手やチームメイトの状況をみながら
自らの意思で動く



緩和ケアチーム看護師の主な役割

- ・患者・家族に対して:トータルペインの視点から患者家族の苦痛を探索・評価する。そして治療や療養生活について患者・家族の意向を確認し、その意思決定を支援する。
- ・医療者に対して:調整役として、担当医や病棟・外来看護師、他の医療チームとの協働や連携を図り、緩和ケアが円滑に途切れなく提供されるように手配する。

緩和ケアチーム看護師の主な役割 追補版

- (1) 患者と家族等の人生や生活に関わるQOLの観点から苦痛やニーズを推察・評価し、患者の対処する力に合わせ、価値観を尊重したケアを提供する役割を果たす。
- (2) 患者と家族等の意向に沿った治療や療養生活、エンドオブライフを実現できるよう、病いの経過を見通し、患者と家族等の価値観を尊重・意向を代弁しながら意思決定支援を促進する役割を果たす。
- (3) 主治医や病棟・外来看護師、他の医療・福祉チームとの協働や連携を図り、患者と家族等の意向に沿った緩和ケアが早期から円滑に切れ目なく提供されるように調整・促進する役割を果たす。
- (4) コンサルテーションを通して、依頼元の医療・福祉従事者と関係性を構築しながら、依頼元の医療・福祉従事者の力が十分に發揮されて問題の解決ができるように教育的な役割を果たす
- (5) 協働するメンバーとよりよい関係性を築けるように働きかけ、良好なチームづくりに促進する役割を果たす

ご清聴ありがとうございます